

30	和歌山県立桐蔭中学校 外1校	25~28
----	----------------	-------

平成28年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

中等教育と高等教育との円滑な接続を図るため、新教科「キャリア桐の葉」を創設し、発達の段階に応じたキャリア教育の系統的な教育課程、指導方法及び評価方法並びに中高の接続の在り方について研究開発を行う。

2 研究の概要

本研究は、学校から社会へ将来を見通したキャリア教育の研究開発である。特に進学を主とする本校でのキャリア教育においては、現在の自分をじっくり見つめさせ、将来社会で生きていく上で基礎となる学習の本質的な意義を理解し、学習意欲の向上につなげるキャリア発達が必要である。

そのため、各教科や特別活動をキャリア教育の視点から見直すとともに、教科「キャリア桐の葉」を創設し、中・高の発達段階に応じた系統的な教育課程の開発、ジョブシャドウイング等の体験活動の効果的な活用についても研究する。また、カリキュラムを通して、省察的気づきを促し、自らの考えを言語化する力を育成しようとしている。これにより一人一人が将来への高い志と目的意識、社会を生き抜く力を持ち、大学、そしてその先にある社会で自立したリーダー的存在として貢献できる人材育成「桐蔭モデル」を構築し、進学を主とする高等学校で実践可能なモデルとなることを目指す。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

これまで高等学校においては、職業学科や総合学科を中心にキャリア教育が行われてきた。これに対して進学を主とする普通科を中心にした学科においては、どちらかと言えばキャリア教育とは無関係と考えられてきたため、これまでその在り方が確立されてきたとはいえない。しかし、高等教育もキャリア発達の一過程と考えた時、また、小中学校との系統的なキャリア教育という観点からも、生徒の希望する進路状況を踏まえつつも、高等学校から大学へ、そして社会へと続く彼らの将来を見通したキャリア発達を促すことは極めて重要である。

そこで、普通科こそキャリア教育が必要という仮説を立て、学ぶ目的を省察させることを通して学ぶ意欲の向上につなげるとともに、人間関係づくりのためのコミュニケーション能力等の向上につながる「桐蔭キャリア教育モデル」を構築したいと考える。また、本校は中学校を併設していることから、中学校と高等学校との円滑な接続を図るには、どのようなモデルであるべきかについても考える。

このモデルにより、新しい時代を切り拓く高い志を持って高等教育機関に進学し、たくましく人生を歩み、さまざまな分野でのリーダーとして社会に貢献する人材が育っていくものとする。同時に、創設する「キャリア桐の葉」を軸にして、省察的な気づきを促し、自らの思いや考えを言語化することによる効果を検証していくことにしている。

(2) 教育課程の特例

- ① 中学校及び高等学校において、キャリア教育の中核となる教科「キャリア桐の葉」を設置。
- ② 中学校においては、「総合的な学習の時間」を減じて、「キャリア桐の葉Ⅰ～Ⅲ」を設置。
- ③ 高等学校普通科においては、「総合的な学習の時間」3単位を減じて「キャリア桐の葉Ⅳ～Ⅵ」を設置。数理科学科においても同様とするが、「総合的な学習の時間」を「課題研究」で代替していた3年生においては、「情報と科学」2単位を1単位に減じている。なお、減じることで生じる履修範囲については、「課題研究」等で補完できると考える。
- ④ 中高ともに「総合的な学習の時間」を減じ教科化している理由としては、教育内容を学校独自に設定できる「総学」ではなく、研究仮説で述べたように、小中学校との系統性を図り、高等学校から大学へ、そして社会へと続く生徒の将来を見通したキャリア発達を促すという点では、必修修化

する必要性を感じるからである。また、学ぶ目的を省察させることを通して学ぶ意欲の向上につなげるとともに、人間関係づくりのためのコミュニケーション能力等の向上につながるモデルを構築するためには、自主教材を開発する必要があると考えるからである。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

高等学校入学時において100%に近い生徒が大学進学を希望し、そのうち約3分の2が現役で国公立大学へ進学していく本校の実態を踏まえ、普通科系進学校におけるキャリア教育の在り方と実践方法、その効果的な教育課程の編成に取り組んでいる。

① キャリア教育目標「桐蔭は、自ら人生を切り拓く人を育てます」の設定と周知

本校におけるキャリア教育がどのような形で結実すればよいかを表した教育目標を設定し、校内掲示板、HP、学校紹介動画、各種配布物等を通じて周知してきた。

② 教育課程への位置付け

6年間または3年間を通して系統的にキャリア教育を実施するために、中学校に教科「キャリア桐の葉Ⅰ～Ⅲ」、高等学校に教科「キャリア桐の葉Ⅳ～Ⅵ」を設定し、学習指導要領の様式に従って、各教科目の目標、内容及び内容の取扱いについて整理している。ここでは、内容のみを示す。

キャリア桐の葉Ⅰ

- (1) 郷土和歌山について知る。
- (2) 身近な大人・職業人から話を聞き、進路や職業についての知識と関心をもつ。
- (3) リーダーの役割やチームの結束力を高めるために大切なことを理解する。

キャリア桐の葉Ⅱ

- (1) 和歌山と他府県との比較検証から、郷土和歌山についての理解を深める。
- (2) 大学訪問・企業見学を通して、広い視野から将来の進路や自分の生活について考える。
- (3) リーダーとしての心構えを正しく理解し、自らの役割を意識しながら主体的に行動する。

キャリア桐の葉Ⅲ

- (1) 東京にある官公庁・企業・大学での学びから、大局的な視点に立って和歌山のことを考える。
- (2) 日本・世界を舞台に仕事をしている官公庁・企業・大学での学びや職場体験学習から、将来社会を担っていく一員としての自覚をもち、自己の向上に努める。
- (3) 自ら成長し、自分に関わる人の成長にも貢献するために自らの資質を高める。

キャリア桐の葉Ⅳ

- (1) 文理選択を考える。
ア 和歌山で活躍している社会人と、社会で活躍するために必要な力について協議する。
イ 職業や大学の学部について知識を得る。
- (2) 15年後の「私」を考える。
ア 15年後の「私」についてポスターセッションを行う。
イ 30歳の「私」の履歴書を書く。

キャリア桐の葉Ⅴ

- (1) ビブリオバトルを活用して、プレゼンテーション能力や質問力を育成する。
- (2) 離職・失業など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応について学習する。
- (3) ディベートに取り組み、近い将来向き合うことになる社会問題について適切な情報や事実に基づいて論理的に発信する力を育成する。

キャリア桐の葉Ⅵ

- (1) 異質な他者とチームを組み、根拠資料から結論を導くという論理的思考を要する課題解決演習に取り組む。チームのファシリテーターを中心に、制限時間内に、資料収集の分担、解決案の協議、報告書のまとめを行う。その後、他チームの報告書を評価することで、自分たちの解決プロセスを振り返る。
- (2) 和歌山で活躍している社会人と、失敗や挫折を乗り越えていくために必要な資質について協議する。

③ キャリア教育全体計画における考え方

先にあげた教育目標を達成するために、カリキュラムを貫く育成眼目として「省察的な気づき」と「言語化」を位置付けた。人がキャリア発達を遂げていく過程においては、自己を振り返り、気づき、一歩踏み出すといった「省察的な気づき」が重要であり、また自らの考えを「言語化」できる資質は、社会の中で生きていく上での必須の資質である。こうしたことから、教科「キャリア桐の葉」の中にこの二つの活動を一貫して位置付けている。

また、教科学習や特別活動（部活動も加えて）をキャリア教育の視点で捉え直すこととした。初年度に「なぜ国語を勉強するのか」、「数学の勉強がどう役に立っていくのか」等を記述した『桐蔭の学び』中学校編・高等学校編を全教員で作成し、次年度には各学年で定着させたい学力を明確にし、その定着度を計る「桐蔭スタンダードテスト」を作成、28年度に全学年で完全実施した。

④ 体験的な学習の活用

発達段階及び生徒規模や適性を考慮して種々の体験的な学習を取り入れている。

中学校では、1年生で「職業人インタビュー」や「先輩に学ぶ」、2年生で「大阪校外学習」や「京都大学訪問」、「企業見学」そして3年生で「東京班別自主研修」や「職場体験（5日間）」を実施している。

高等学校では、1年生全員（280名）を対象として「桐蔭リーダー塾」（28年度は高校3年でも実施）、「桐蔭総合大学」を実施し、オープンキャンパスへの参加を促している。一方、生徒の広範囲に及ぶ適性や志望を踏まえて、「ジョブシャドウイング」、「高校生ビジネスプラングランプリ」、「京都大学サマースクール」等への参加を促している。

⑤ 評価指標の作成

- i) 初年度に、本校のキャリア教育を通して付けたい力を明確化するために、全教員の合意形成を経て整理し、「付けたい力30～中学生～」及び「付けたい力30～高校生～」を作成した。これを用いて、研究開発プログラム実施前からアンケート調査を行い、生徒の自己変容を測っている。同様に、保護者及び教職員対象のアンケートにも活用している。また、「キャリア桐の葉」の各回授業の評価規準としてこの付けたい力を設定している。
- ii) キャリア教育により学習意欲が向上していると感じているかを確認するために、学習単元終了ごとに「学びの意識調査」を実施している。
- iii) 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）中学校・生徒調査及び高等学校・生徒調査』の一部を用い、高校3年生（12月実施）、中学3年生（3月実施）対象に調査を行い、研究開発プログラム実施前後で、調査項目にどのような変化が生じるかを確認、分析することとしている。

(2) 研究の経過

	実施内容等
1年次 (平成25年度)	(1) 研究組織の編成 (2) 新教科「キャリア桐の葉」の教育課程上の位置付け (3) 生徒に身に付けさせたい力の明確化 ①身に付けさせたい力 中学校30項目の作成 ②身に付けさせたい力 高等学校30項目の作成 (4) 中学校・高等学校のキャリア教育全体計画の見直し (5) 評価方法の検討及び各種アンケート調査の実施 ①中学校・高等学校3年生対象に「総合的実態調査（国政研）」を活用 ②中学校・高等学校1、2年生対象に、「身に付けさせたい力30項目」についてアンケート調査を実施 (6) 中学校・高等学校の「キャリア桐の葉」の指導計画の作成と教材開発 (7) 中学校設定教科「キュリオ」指導計画の見直し (8) インターンシップ等の体験活動の導入にかかる課題の整理と準備 (9) 高等学校1、2年生を対象とした、大学教員による1日講義「桐蔭総合大学」の実施

	<p>(10) 先進校の視察と教員研修・保護者研修</p> <p>(11) キャリア教育の視点から各教科等の指導方法等の見直しとその具現化としての「桐蔭の学び 中学校編・高等学校編」作成</p>
<p>第2年次 (平成26年度)</p>	<p>(1) 中学校・高等学校1年生の教育課程実施状況を評価しながら、「キャリア桐の葉」の改善・修正</p> <p>(2) 次年度の中学校・高等学校2年生の実施計画・教材開発</p> <p>(3) 評価方法の検討及び各種アンケート調査の実施</p> <p>①キャリア教育を通して付けたい力を「付けたい力30」に名称変更、アンケート調査を継続実施</p> <p>②学習意欲の変化を確認する「学びの意識調査」を作成し、実施</p> <p>③教員対象の「キャリア教育に関する教員調査」を作成し、実施</p> <p>④「総合的実態調査(国政研)」を「国政研・桐蔭調査」と名称変更して、中学校・高等学校3年生対象に継続実施</p> <p>(4) ポートフォリオ電子化の検討と「キャリア形成の軌跡」シートの作成</p> <p>(5) 企業リーダーによる「桐蔭リーダー塾」の実施</p> <p>(6) 希望者対象にジョブシャドウイング導入</p> <p>(7) 高等学校1、2年生を対象とした、大学教員による1日講義「桐蔭総合大学」の実施</p> <p>(8) 先進校の視察と校内研修の実施</p> <p>(9) 外部講師による生徒啓発講演の実施</p> <p>(10) 各教科目における学力定着の検証と指導方法の改善を企図した「桐蔭スタンダードテスト」の作成</p>
<p>第3年次 (平成27年度)</p>	<p>(1) 中学校・高等学校1、2年生の教育課程実施状況を評価しながら、「キャリア桐の葉」の改善・修正</p> <p>(2) 次年度の中学校・高等学校3年生の実施計画・教材開発</p> <p>(3) 各種アンケート調査の継続実施と結果分析</p> <p>①「付けたい力30」についてアンケート調査</p> <p>②「学びの意識調査」</p> <p>③教員対象の「キャリア教育に関する教員調査」</p> <p>④中学校・高等学校3年生対象に「国政研・桐蔭調査」</p> <p>(4) 企業リーダーによる「桐蔭リーダー塾」の実施</p> <p>(5) ジョブシャドウイング、各種コンテスト希望生徒の拡大</p> <p>(6) 高等学校1、2年生を対象とした、大学教員による1日講義「桐蔭総合大学」の実施</p> <p>(7) 先進校の視察と校内研修の実施</p> <p>(8) 外部講師による生徒啓発講演の実施</p> <p>(9) 各教科目における学力定着の検証と指導方法の改善</p> <p>①「桐蔭スタンダードテスト」の実施と分析</p> <p>②桐蔭FD会議」の設置と校内研修の実施</p>
<p>第4年次 (平成28年度)</p>	<p>(1) 研究開発全体の総括</p> <p>①最終年次発表会の開催</p> <p>②研究開発実施報告書の作成</p> <p>③各種アンケート調査の集約と研究仮説の検証</p> <p>④研究開発指定後の方向性についての検討</p> <p>(2) 中学校・高等学校1、2、3年生の教育課程実施状況を評価しながら、「キャリア桐の葉」の改善・修正</p> <p>(3) 各種アンケート調査の継続実施と結果分析</p> <p>①「付けたい力30」</p> <p>②「学びの意識調査」</p> <p>③教員対象に「キャリア教育に関する教員調査」</p>

	<p>④「国政研・桐蔭調査」</p> <p>(4) 企業リーダーによる「桐蔭リーダー塾」を高等学校1、3年生対象に実施</p> <p>(5) ジョブシャドウイング、各種コンテスト希望生徒の拡大</p> <p>(6) 「桐蔭総合大学」の実施</p> <p>(7) 校内研修の実施</p> <p>(8) 外部講師による生徒啓発講演の実施</p> <p>(9) 研究開発学校指定終了後の教育課程の検討</p> <p>(10) 各教科目における学力定着の検証と指導方法の改善</p> <p>①「桐蔭スタンダードテスト」の全学年実施と分析</p> <p>②「桐蔭FD会議」による校内研修の実施</p> <p>③「桐蔭の学び」冊子の見直し</p>
--	---

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次 (平成25年度)	<p>(1) キャリア委員会では、全体計画、実施方法・内容、評価方法等についての取組、実施状況、成果を検証し評価する。なお、本校卒業生の実態・課題を把握し、今後の取組について参考とするため、卒業生の状況調査を検討する。</p> <p>(2) キャリア委員会及びキャリア作業部会で新設する「キャリア桐の葉」の学習評価の規準を検討する。</p> <p>(3) 運営指導委員会（年3回、7月・11月・1月）、学校評議員会（年2回、9月・2月）においては、キャリア委員会の検証を受け、教育課程上の位置付け、全体計画、実施方法・内容等について、取組状況や成果について評価する。</p> <p>(4) 平成26年度から実施されていく本校のキャリア教育課程を評価するために、平成25年度からキャリア教育課程実施前の生徒を対象にアンケート調査を開始する。</p> <p>①『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）中学校・生徒調査及び高等学校・生徒調査』（以下、国政研・総合実態調査）の一部を用い、高校3年生（12月）、中学3年生（3月）対象にアンケート調査を行う。</p> <p>②本校教員の合意形成を経て作成した「身に付けさせたい力」を用いて、高校1、2年生（2月）、中学1～3年生（3月）対象にアンケート調査を行う。</p>
第2年次 (平成26年度)	<p>(1) キャリア作業部会は、全体計画、実施方法・内容、評価方法等についての取組、実施状況、成果を検証・評価し、改善に努める。</p> <p>(2) 運営指導委員会（年3回、6月・12月・2月）は、全体計画、実施方法・内容、評価方法等について評価し、指導・助言を行う。また、授業を参観し、実施状況等について指導・助言する。学校評議員会（年2回、9月・2月）は、進捗状況の報告を受け、外部評価を行う。</p> <p>(3) 国政研・総合実態調査の一部を用いた調査を国政研・桐蔭調査と名称変更し、高校3年生（12月実施）、中学3年生（3月実施）対象にアンケート調査を行う。（本校キャリア教育の取組を全国比較するための指標とすることと、キャリア教育課程実施前の生徒データ取得のため）</p> <p>(4) 「身に付けさせたい力」を「付けたい力30～中学校～」、「付けたい力30～高等学校～」に名称変更し、高校3年生（12月実施）、高校2年生（2月実施）、中学2～3年生（3月実施）対象にアンケート調査を行う。（キャリア教育課程実施前の生徒データ取得と生徒の自己変容をみるため）</p> <p>(5) 「キャリア桐の葉Ⅰ」及び「キャリア桐の葉Ⅳ」の履修生徒である中学校1年生、高等学校1年生対象に、年度当初と年度末に「付けたい力30」についてアンケート調査を行う。（6）「付けたい力30」の各項目の主語を「お子様は…」として、保護者対象にアンケート調査を実施（2月）。</p>

	<p>(7) 「付きたい力30」の各項目の主語を「桐蔭生は…」として、教職員対象にアンケート調査を実施(2月)。</p> <p>(8) 本校キャリア教育に対する理解やキャリア教育の視点に立った教育実践等に関する教職員対象のアンケート「キャリア教育に関する教員調査」を作成し、実施(2月)。</p> <p>(9) 「キャリア桐の葉Ⅰ」及び「キャリア桐の葉Ⅳ」の各単元が、将来との関連や学びに対する意識に有効かどうかをみるため「学びの意識調査」を作成。単元終了時に調査を実施(年間4～5回)。</p> <p>(10) 指導要録上の評価については、各活動等において行った生徒の自己評価及び相互評価等も参考に、授業担当者が文章記述による総合評価を行う。</p>
<p>第3年次 (平成27年度)</p>	<p>(1) キャリア作業部会は、全体計画、実施方法・内容、評価方法等についての取組、実施状況、成果を検証・評価し、校内研修で共有する。</p> <p>(2) 運営指導委員会(年3回、6月・12月・2月)は、全体計画、実施方法・内容、評価方法等について評価し、指導・助言を行う。また、授業を参観し、実施状況等について指導・助言する。学校評議員会(年2回、7月・2月)は、進捗状況の報告を受け、外部評価を行う。</p> <p>(3) 国政研・桐蔭調査・高校3年生(12月)、中学3年生(3月)。(本校キャリア教育の取組を全国比較するための指標、キャリア教育課程実施前の生徒データ取得)</p> <p>(4) 「付きたい力30」アンケート調査・高校3年生(12月)、中学3年生(3月)(キャリア教育課程実施前の生徒データを取得、生徒の自己変容)</p> <p>(5) 「付きたい力30」アンケート調査・中学校2年生、高等学校2年生(2月)。(「キャリア桐の葉Ⅱ」または「キャリア桐の葉Ⅴ」履修前後の生徒の自己変容、キャリア教育課程実施後の生徒データ取得)</p> <p>(6) 「付きたい力30」アンケート調査・中学校1年生、高等学校1年生(4月と2月)。(「キャリア桐の葉Ⅰ」または「キャリア桐の葉Ⅳ」履修前後の生徒の自己変容、キャリア教育課程実施後の生徒データ取得)</p> <p>(7) 「付きたい力30」の各項目の主語を「お子様は…」として、保護者対象にアンケート調査を実施(2月)。――</p> <p>(8) 「付きたい力30」の各項目の主語を「桐蔭生は…」として、教職員対象にアンケート調査を実施(2月)。</p> <p>(9) 「キャリア教育に関する教員調査」を実施(2月)。</p> <p>(10) 「キャリア桐の葉Ⅰ～Ⅱ」及び「キャリア桐の葉Ⅳ～Ⅴ」において、単元終了時に「学びの意識調査」を実施(年間各4～5回)。</p> <p>(11) 指導要録上の評価については、各活動等において行った生徒の自己評価及び相互評価等も参考に、授業担当者が文章記述による総合評価を行う。</p>
<p>第4年次 (平成28年度)</p>	<p>(1) キャリア作業部会、キャリア委員会、職員会議で4年間の研究開発に係る総括を行う。その上で、研究開発指定後に向けた本校のキャリア教育のあり方等について整理する。</p> <p>(2) 運営指導委員会(年2回、6月・10月)は、4年間の研究開発を評価し、最終年次発表への指導・助言を行う。</p> <p>(3) 学校評議員会(年2回、7月・2月)は、研究開発に取り組んだ学校の変化等について外部評価を行う。</p> <p>(4) 前年度と同様に各種アンケート調査を実施する。</p> <p>(5) 「付きたい力30」を用いた調査結果を集約する。</p> <p>① キャリア教育課程実施前後の生徒について比較・分析を行う。</p> <p>② キャリア教育課程実施後の生徒の自己変容について分析を行う。</p> <p>③ 保護者調査のデータを参考にする。</p> <p>④ 教職員調査のデータを参考にする。</p> <p>(6) 国政研・桐蔭調査を集計し、キャリア教育課程実施後の生徒について全国調査との比較・分析を行う。</p> <p>(7) 3年間の「学びの意識調査」を集計し、教科「キャリア桐の葉」の各単元の有効性を検</p>

証する。

- (8) 「キャリア教育に関する教員調査」を集計し、キャリア教育に対する理解やキャリア教育実践等の変化についてまとめる。
- (9) 教科「キャリア桐の葉Ⅰ～Ⅲ」および「キャリア桐の葉Ⅳ～Ⅵ」の指導要録上の評価については、各活動等において行った生徒の自己評価および相互評価等も参考に、授業担当者が文章記述による総合評価を行う。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 生徒への効果

本校のキャリア教育は、「自ら人生を切り拓く人」の育成に重きを置き、生徒一人一人が将来への高い志と目的意識、社会を生き抜く力を持ち、大学、そしてその向こうにある社会で自立した一人の人間として、また社会のリーダーとして社会に貢献できることを期待してプログラムを組んでおり、そのねらいのもつ性質上、俄にその効果を測ることは難しい。しかし、指定初年度に組んだ評価計画に沿って実施してきている各種アンケートでは、ある傾向が出てきているものもある。

i) 「国政研・桐蔭調査」から見えること

『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター）中学校・生徒調査及び高等学校・生徒調査』の一部を用いた「国政研・桐蔭調査」は、高校3年生（12月実施）、中学3年生（3月実施）対象に調査を行い、4年目を迎える。昨年までの生徒はキャリア教育実施前の生徒で、本年度は実施後の生徒（キャリア教育一期生として）の回答が得られることになる。

ii) 「学びの意識調査」から見えること

「キャリア桐の葉」の各単元終了時に、その活動や学習を終えて、①学校でしている各教科の勉強が将来の人生にどのようにつながっていくか理解できたと思うか、②勉強することの目的や理由を理解して、もっと勉強しようという意欲が高まったと思うか、について問うものである。この調査では、変容や経年比較が難しく、学年の生徒の全般的な特徴やプログラムの妥当性を検討する資料としての活用にとどまっている。

iii) 「付けたい力30」から見えること

中高別「付けたい力30」は、「キャリア桐の葉」の各回授業の評価規準に設定するとともに、生徒（入学時と各年度末計4回）、保護者（各年度末計3回）、教職員（各年度末計3回）対象のアンケート調査として用いてきた。この調査から、キャリア教育課程の実施前と実施後の生徒を比較したり、生徒の自己変容を測ることによって、本校のキャリアプログラム等の検証をするためのものとしている。

平成25年度高校入学生と平成26年度高校入学生（キャリア教育課程実施前と実施下の生徒）の比較では、高1年末度末調査において30項目すべての平均数値が上昇している。また、平成26年度高校入学生と平成27年度高校入学生（ともにキャリア教育課程実施下の生徒）では、1年修了後の調査においてほとんど差異はない（微増26項目、微減4項目）。このことから、キャリア実施生（26、27）については実施前（25）に比べ明らかに「付けたい力30」についての肯定的な自己変容が見られることが検証される。一方自己変容においては、中学校、高校とも特に「学ぶ力」という本校独自の視点で加味した項目において望ましい結果が見られない。「キャリア桐の葉」の授業以外の場面でも、付けたい力を意識した生徒との関わり、指導が必要であることが伺える。今後設定した評価計画に沿って調査を継続していくことでより根拠のある検証が可能になると考える。

② 教員への効果

進学を主とする普通科系高等学校（併設中学校含む）に学ぶ生徒には、各教科の学びを将来の高等教育機関及び社会の中でどう生かしていくべきかについて理解してもらいたい。その理解があって日々の学習の意義を理解し、学習意欲が向上するという研究仮説を、全教員が共通認識し、教育諸活動に携わることをねらいとしてきた。

i) キャリア教育の視点で教科等を見直す「桐蔭の学び」の作成と活用

指定初年度に、すべての教科、特別活動、部活動をキャリア教育の視点から見直し、形とするために「桐蔭の学び」中学校編及び高等学校編を作成した。その中で、「キャリアへの誘い」と称して次のような項目を取り入れ、キャリア教育の視点に立った学習指導とはどのようなものかを改めて各教科で分析し、提示している。

- ・なぜ□□を勉強するのか（学習の意義）
- ・□□の勉強がどう役に立っていくのか（将来における生きる力との関連づけ）
- ・□□と学部学科・職業との関係（キャリア教育の視点）

この冊子に対しては、教科調査官や本校運営指導委員を始めとして多くの関係者からの好評を得ている。このような具体的な成果物を生徒に提示し、活用させることができていることは、通常のシラバスを超えた個々の生徒の学びに役立つ情報としての役割を果たすことができたと考えている。

ii) カリキュラムのバックワードデザインによる「桐蔭スタンダードテスト」の作成

教員自らの教科指導の在り方、ねらいとした授業が達成されているか、あるいは期待どおりの学力を生徒が付けているかという点で、振り返りができるように本校オリジナルの実力テスト「桐蔭スタンダードテスト」を作成・実施し、その結果分析を各教科から発表している。

このことで、全教員が全学年の、また他教科の情報や指導方法等を共有することができ、キャリア教育の視点に立った教科指導力の向上につながっていると考える。

iii) 「キャリア桐の葉」実施担当者会議の開催

「キャリア桐の葉」の実施内容・実施方法については、週1回のペースで教材作成者と授業担当者による打ち合わせ会議（担任会議）を行っている。このことで、教材に関する打合せだけでなく、教員のキャリア教育に対する知識・理解が深まり、生徒のキャリア形成を意識した教育活動が増えてきている。

iv) キャリア教育に関する校内研修の充実

研究開発の指定を受け、キャリア教育に関する校内研修は回数、内容の両面で相対的に充実していると考えている。平成26年度に作成した「キャリア教育に関する教員調査」によると、「キャリア教育に関する校内外の研修等への参加」について常に9割以上が重要性を認めており、教員が学び続ける場の確保に役立っていると考えている。

v) 「キャリア教育に関する教員調査」から見えること

この調査は、[1] キャリア教育に関する意識調査（20問）、[2] キャリア教育の視点に立った教育実践について（11問）、[3] 生徒の様子について（7問）について尋ねたもので、26年度、27年度とも肯定的回答は多い。前述の「付きたい力30」の生徒自己変容では課題であった「学ぶ力」の領域であるが、教員側からは、自身のキャリア教育的視点での教育活動の実践、生徒の様子・活動両面において、キャリア教育取組の効果が見て取れる結果となっている。

③ 保護者への効果

i) キャリア教育目標「桐蔭は、自ら人生を切り拓く人を育てます」の周知

国政研「総合実態調査 高校生・保護者調査」で、「学校における授業や生活で指導してほしいこと」の上位にあがった項目を端的に表したこの目標には、本校の保護者も賛同し、理解を示してくれている。

ii) 「付きたい力30」の保護者向けアンケートの実施

生徒向け「付きたい力30」の各問いの主語を「あなたのお子様は…」とし、保護者対象の調査を行った。このことにより、キャリア教育を通して、生徒にどんな力を付きたいかをより多くの保護者に知ってもらうことにつながっている。

iii) 「桐蔭がめざすキャリア教育」に関する発表を通しての周知

これまで、近畿高等学校PTA連合会（校長）、全国高等学校PTA連合会（PTA会長）等、本校のキャリア教育について発表する機会を得てきた。また、本年度はPTA新聞でも、校長とPTA役員との対談をメインとしたキャリア教育特集を組んで発行に向け準備を進めている。さらに、昨年の研究指定3年次発表会には38名、今年の実験年次発表会には56名の保護者の参加をいただくなど、本校のキャリア教育についてより詳しく知ってもらうことができている。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

① 「キャリア桐の葉」の指導力向上

教科「キャリア桐の葉」は年間指導計画に則り毎回の教材と指導案を作成、これを用いて実施担当者打ち合わせ会議を行うしくみを作っている。しかし、①各実施担当者が、授業のねらいを把握し、自分なりの授業を作る水準まで達しているか、②計画された活動を「こなす」から「工夫する」水準に生徒を引き上げられているか、③学習目標や評価規準に含まれる付きたい力を意識した授業になっているか、等の実践レベルにおける課題はある。これらの課題に対しては、校内研修（桐蔭FD会議）で「教科」としての明確な課題を設定した上で、研究授業等を通して分析、共通認知を図れるようにしたい。

② 体験的な学習への参加希望者の拡大

キャリア教育を実践する中で体験的な学習は不可欠であることを前提としつつ、本校にとって有効かつ持続可能なものを探ってきた。その結果、1、3年生における「桐蔭リーダー塾」、1、2年生における「桐蔭総合大学」を必修とし、高校生の多様なニーズに対応する方策として、1、2年生の希望者によるジョブシャドウイングや各種コンテストを活用することとした。学校以外の場で学び、評価される機会を提供するしくみを維持し、規模的拡大を図っていくことについてさらに検討を重ねなければならない。

③ 今後取り組むべき課題

これまで研究開発の中で作成してきたものを、次の視点で整理していかなければならない。

i) 研究開発期間であったから実施してきた取組

研究仮説を検証するための観点で計画されたアンケート調査や、研究開発事業の予算があったから実施できたものなどを改めて整理して、来年度計画の修正等を検討しなければいけない。

ii) 本校の実態に則した取組と進学を主とする普通科高校で実施汎用性が高い取組

本校が置かれている教育的環境、和歌山県の屈指の伝統校であるがゆえの利点の上に立った取組は、他校で容易に取り入れられるものではないかもしれないし、また、地理的環境を生かした取組も同様である。

一方、「桐蔭の学び」冊子や「桐蔭スタンダードテスト」の分析、桐蔭FD会議の運用等により、キャリア教育の視点に立った教育活動を展開したり、カリキュラムのバックワードデザインの視点に立って教科指導を見直したりすることについては、カリキュラムマネジメントの考え方を先取りしたものであり、汎用性が高いと考える。このことについては、さらに研究を重ねる必要がある。

iii) 本校キャリア教育の持続可能性を高める取組

これまで「桐蔭の学び」冊子の作成、「付きたい力30」の検討、「桐蔭スタンダードテスト」作成と実施・分析、桐蔭FD会議での研修等で全職員が知恵を出し合い協議を深めてきた。今後、毎年教員異動があり、メンバーが入れ替わっていくことが予想される中で、持続可能性を担保する組織作りとシステムを再構築する必要がある。このことは、本年度（研究最終年次）の重要課題の一つとしてとらえている。

中学校 教育課程表（平成28年度）

		第1学年		第2学年		第3学年		
	教科等名	年間時数	標準時数	年間時数	標準時数	年間時数	標準時数	
必修教科	国語	148.8	140	145.3	140	113.8	105	
	社会	108.5	105	111.1	105	140.4	140	
	数学	142.6	140	113.8	105	146.6	140	
	理科	113.8	105	145.3	140	144.0	140	
	音楽	45.5	45	37.7	35	37.7	35	
	美術	45.5	45	37.7	35	37.7	35	
	保健体育	108.5	105	105.9	105	107.2	105	
	技術・家庭	75.3	70	71.8	70	37.7	35	
	外国語	142.6	140	142.6	140	140.0	140	
	必修教科合計	931.1	895	911.2	875	905.1	875	
学校独自教科	キュリオ「表現」	22.8	/	22.8	/	/	/	
	キュリオ「国際」	22.8		22.8				39.0
	キュリオ「科学」	22.8		22.8				35.0
	学校独自教科合計	68.4		0		68.4		0
総合的な学習の時間		- 50.7	50	- 70.8	70	- 71.2	70	
キャリア桐の葉Ⅰ～Ⅲ		50.7	50	70.8	70	71.2	70	
道徳		35.0	35	35.0	35	35.0	35	
特別活動		35.0	35	35.0	35	35.0	35	
授業時数		1120.2	1015	1120.4	1015	1120.3	1015	

※ 本校は65分で授業を実施しているため、年間時数は、35週、1単位時間（50分）で換算している。

※ 各教科等の時数は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計時数に誤差が生じることがある。

※ 標準時数は、学校教育法施行規則によって定められた時数のことである。

平成28年度入学生用教育課程表

科目	単元	授業	1学期				2学期				合計	備考
			1	2	3	4	5	6	7	8		
国語	漢字の読み書き	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	漢字の読み書きの基礎を習得させる。
算数	数の性質	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	数の性質の基礎を習得させる。
理科	物質の性質	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	物質の性質の基礎を習得させる。
社会	地域の歴史	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	地域の歴史の基礎を習得させる。
英語	基礎的英語	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	基礎的英語の基礎を習得させる。
音楽	音楽の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	音楽の基礎を習得させる。
美術	美術の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	美術の基礎を習得させる。
体育	体育の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	体育の基礎を習得させる。
保健	保健の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	保健の基礎を習得させる。
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	総合的な学習の時間の基礎を習得させる。
外国語	外国語	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	外国語の基礎を習得させる。
情報	情報の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	情報の基礎を習得させる。
職業	職業の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	職業の基礎を習得させる。
特別活動	特別活動	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	特別活動の基礎を習得させる。
家庭科	家庭科の基礎	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	家庭科の基礎を習得させる。
総合	総合的な学習の時間	1	2	3	4	5	6	7	8	11	11	総合的な学習の時間の基礎を習得させる。
合計										11	11	

平成28年度入学生用教育課程表

単位数表示
和歌山県立桐蔭高等学校

教科	学 科	標 準 単 位 数	数 理 科 学 科			履 単 位 数	備 考			
			1年	2年	3年		教科別履 修単位数	選 択 上 の 留 意 点		
国 語	国 語 総 合	4	5			5	14			
	現 代 文 B	4		2	2	4				
	古 典 B	4		2	3	5				
地 理 歴 史	世 界 史 A	2		2		2	4, 7	3年次の地歴 科目は1・2 年次に履修し た科目から選 択		
	日 本 史 A	2		2	} -2	0, 2				
	地 理 A	2		2		0, 2				
	世 界 史 探 究				3	} -			0, 3	
	日 本 史 探 究				3				0, 3	
	地 理 探 究				3	+ 3			0, 3	
公 民	現 代 社 会	2	2			2	2, 5			
	公 民 探 究				3	0, 3				
保 体	体 育	7~8	2	3	2	7	9			
	保 健	2	2			2				
芸 術	音 楽 I	2	2	} -2		0, 2	2			
	美 術 I	2	2		0, 2					
	書 道 I	2	2		0, 2					
外 国 語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	3			3	18			
	コミュニケーション英語Ⅱ	4		4		4				
	コミュニケーション英語Ⅲ	4			4	4				
	英語表現Ⅰ	2	3			3				
	英語表現Ⅱ	4		2	2	4				
家 庭 情 報	家 庭 基 礎	2		2		2	2			
情 報	情 報 の 科 学	2			1	1	1			
普 通 科 目 小 計			19	19	17	55				
理 数 専 門	理 数 数 学 Ⅰ	4~8	6			6	38	理数物理お よび理数生物 は2年次から の継続履修		
	理 数 数 学 Ⅱ	6~10		6		6				
	理 数 数 学 特 論	4~10			5	5				
	理 数 課 題 研 究				2	2				
	理 数 物 理	4~8	2	3	} -3	3			} -3	2, 8
	理 数 生 物	4~8	2	3		3				2, 8
	理 数 化 学	4~8	2	3		3			8	
	課 題 研 究	1~2				1			1	
理 数 専 門 科 目 小 計			12	12	14	38				
キ ャ リ ア 桐 の 葉 Ⅳ ~ Ⅵ			1	1	1	3	3			
合 計			32	32	32	96				
ホ ー ム ル ー ム 活 動			1	1	1	3				
総 合 的 な 学 習 の 時 間			0(-1)	0(-1)	0(-1)	0(-3)				
総 合 計			33	33	33	99				

学校等の概要

1 学校名、校長名

和歌山県立桐蔭^{とういん}中学校・桐蔭^{とういん}高等学校

校長 岸田 正幸

2 所在地、電話番号、FAX番号

〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上五丁目六番十八号

電話 073-436-1366

FAX 073-423-8033

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

《 桐蔭中学校 》

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
80	2	80	2	80	2	240	6

《 桐蔭高等学校 》

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	200	5	199	5	200	5	599	15
	数理科学科	81	2	82	2	80	2	243	6
計		281	7	281	7	280	7	842	21

4 教職員数

《 桐蔭中学校 》

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1*		1			10		1			
FLT	SC	事務職員	司書	計	* 兼務					
		1		14						

《 桐蔭高等学校 》

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		2			49		1			3
FLT	SC	事務職員	司書	計						
1	1	4	1	63						